

令和6年度第1回中央区地域支えあいづくり協議体 (議事録)

日 時 令和6年7月2日(火) 午前10時~12時

場 所 中央区社会福祉協議会3階会議室

次 第

1 開会

2 会長挨拶

3 新任委員紹介

4 各委員より報告

5 議題

(1) 高齢者施策推進室より報告

(2) 生活支援コーディネーターによる取組みについて

(3) 「支えあいのまちづくり協議体(第2層協議体)」実施報告

(4) 意見交換

「災害時から考える支えあいの仕組みづくりについて」

6 今後の協議体実施予定

7 閉会

出席委員（敬称略：順不同）

射場 典子	聖路加国際大学 国際・地域連携センターPCC 開発・地域連携室
鈴木 雅之	民生・児童委員協議会 京橋地域高齢福祉部会
高野 大輔	民生・児童委員協議会 日本橋地域高齢福祉部会
吉田 千晴	京橋おとしより相談センター
保田 奈奈	日本橋おとしより相談センター
石川 紫	月島おとしより相談センター
加久 哲也	中央区桜川敬老館孤立防止・生きがい推進担当
遠藤 馨	中央区浜町敬老館孤立防止・生きがい推進担当
岩崎 千春	中央区勝どき敬老館孤立防止・生きがい推進担当
古田島 幹雄	中央区社会福祉協議会 事務局長
安部 信之	中央区社会福祉協議会 管理部地域ささえあい課長 (第1層生活支援コーディネーター)
田部井 久	中央区高齢者施策推進室長
阿部 志穂	中央区福祉保健部高齢者福祉課長
河内 武志	中央区福祉保健部介護保険課長

欠席委員（敬称略）

大矢 智子	民生・児童委員協議会 月島地域高齢福祉部会
-------	-----------------------

配布資料

資料1	中央区地域支えあいづくり協議体運営要綱
資料2	中央区見守りキーホルダー登録システムについて
資料3	救急医療情報キットの配布
資料4	在宅生活を支援する事業のご案内《介護保険以外のサービス》
資料5	生活支援コーディネーターによる取り組みについて
資料6	支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）実施報告
資料7	災害時に考えられる社会資源

各委員からの報告：

「最近の高齢者の生活の様子について」

- ・佃の渡しサロンを運営しているが、参加されている方は楽しみにして来てくださっている。気がかりなのはコロナ禍で疎遠になった方たちがどうしているのか。また、児童館も併設されており、子どもと交流するのをとても楽しみにしている参加者も多い。健康ナビスポット：るかなびでの体を動かす講座は人気がある。
- ・通いの場を運営しているが、体を動かすニーズが高いように感じている。
- ・4月から日本橋地域で新しい通いの場がスタートした。作業療法士が運営しており、膝

や腰が痛いなど日常の会話から「こんなストレッチはどうですか？」など参加者の気になることをワンポイントで聞けるという、これまでにはない新しい内容の通いの場となっている。通いの場に参加する高齢者のニーズをつかみ直すことは必要と感じている。

- ・熱中症が増えてきている。本の森ちゅうおうや敬老館で涼み、知り合いとおしゃべりをして過ごしている高齢者も多い。地域ケア会議では、つながりをあえて持ちたくない高齢者にどのように手を差し伸べたらよいのか、どうしたら困った状態にしないのかの意見交換を行った。このような方に対する支援は難しく、すぐに答えが出るものではないが、さりげないつながりのためには関係者のつながりも大事であるように感じている。

- ・今年になって介護保険適用のデイサービスが2か所閉鎖となり、次の行き場がない方やデイサービスの通所回数を減らす方もいる。また、新たな行き場として小規模多機能型居宅介護を選択される方も増えている。日本橋地域の通いの場は元気な人向け、従来型の茶話会を中心とした通いの場、着飾って行けるような通いの場と選択の幅が広がっており、人と交わるのが苦手な人でも通いやすいものがある。

- ・月島地域は再開発計画が進み、高層マンションの建設が進んでいる。新住民急増の課題や再開発後に集合住宅に戻ってくる古くからの住民も多く、以前のような長屋でのコミュニティの再建は難しいのではとの課題がある。近所付き合いが希薄化し、孤立する高齢者の方も多くなるのではないかと危惧している。また月島地域は、高齢者だけの世帯や独居世帯が多いことから介護認定に関する相談、サービス申請に関する相談が多い。地域のサロンに参加する男性は少ない印象。

- ・桜川敬老館の先月の来所者は3,936人。女性75%、男性25%と女性の割合が多い。また先月はリサイクルデーを行ったが、利用者の皆さんは楽しみにしており、1週間で品物がなくなるほどであった。区内敬老館は7月1日～9月8日までクーリングシェルターとして18時まで開館時間を延長しているため、まわりの高齢者の方にお伝えしてもらえたらと思う。

- ・浜町敬老館の利用者数は増えてきている。コロナが落ち着いたことで、今まで来ていた参加者が戻ってきている。利用が途絶えている方に月1回電話をかけているが、60歳代で来ていない人の理由として“介護で忙しい”との理由が増えてきた。また、通いの場に参加される方を対象に3月に敬老館でのイベント出演依頼を行った。こうしたつながりづくりを今後も行っていきたい。

- ・勝どき敬老館でもコロナ禍で利用を控えていた人の来館が徐々に増えてきている。現在48講座を実施しているが、今後も利用者のニーズに沿うような講座を行っていきたい。それに伴い、地域の高齢者サロンに訪問し敬老館をより多くの方に利用していただくため情報発信に努めている。

- ・社会福祉協議会としては、昨日7月1日、京橋の新しい拠点として「築地交流スペース ツキチカ！」がグランドオープンし、イベントを開催した。15名ほどの方に集まっていたが、多くが高齢者の方であった。5月～6月のプレオープン時には週2回のおとなりカフェと週1回のお楽しみ企画を開催したが、「次はいつやっているの?」「また来たいわ」との声をいただき、地域のサロンは高齢者の方にとっても重要な場所であることを

再確認した。地域の方に活動をする場所として活用していただいたり、いろいろな方に来ていただきたいのでご紹介をお願いしたい。

・今年4月より区役所地下1階に『ふくしの総合相談窓口』が設置され、社会福祉協議会から職員4名が従事している。断らない相談としてさまざまな福祉の相談を受け付け、制度の狭間にいる方や複合的な課題を抱えた方に寄り添った相談支援を行っていかうとするものである。何かあったらぜひご相談いただきたい。また、本日のテーマにもあるが能登半島地震から半年が経過した。今回の能登半島地震では区市町村の社会福祉協議会も窓口となり、ボランティアの受付を行っている。また、本会職員も現地で活動を行い、現地でのサロン活動支援も行ったという報告を受けている。避難所における高齢者の孤立防止の観点でも重要であるため、今後とも力を入れていきたい。

議題説明

- (1) 中央区高齢者施策推進室より事業報告
- (2) 生活支援コーディネーターより事業報告
- (3) 生活支援コーディネーターより支えあいのまちづくり協議体実施報告

○上記事業報告及び配布資料への質問事項等：

- ・資料2の見守りキーホルダーにより、区外（東京都近郊の県）で認知症の高齢者の方が発見された例があり、区外の警察からよい取り組みであるのご家族が言われたとのことであった。
- ・『きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～』に掲載された福祉避難所について、二次避難所であるため、誰でもすぐに利用できるわけではないとの表現があるともっとよかったのではないか。
- ・資料4『在宅生活を支援する事業のサービス（介護保険以外のサービス）』は配布されているものなのか
→要介護認定を申請された方全員に配布している。また会議で関係者向けに配布し周知を図っているほか、介護事業所にも配布しケアマネジャーから利用者に伝えてもらうようにしている。

- (4) 意見交換（グループワーク）

「災害時に考える支えあいの仕組みづくりについて」

京橋地域：

- ・安否確認については、発災時においては、子ども、高齢者に関わらずすべての人に関わることなので、落ち着いてからが現実的となるだろう。
- ・地域たすけあい名簿もあるが、個人情報保護の観点から災害時の混乱期にはすぐに持ち出すのが難しいことが想定され、日頃から顔の見える関係づくりも大事にしていきたい。

- ・ 備蓄品というイメージがあるが、トイレも大事である。自然なことだけでなく衛生面にも関わってくる。携帯トイレの使い方を高齢者の集まりでレクチャーしたり配布したりもしている。また、携帯トイレやトイレトーパーを備蓄し、災害時に困っている人へ渡すことができるよう日頃から意識している。
- ・ マンションの防災に関しては、区からの働きかけも行っているが個人情報の関係で助け合い名簿の作成がなかなか進んでいない現状がある。マンションでは見守りや備蓄品の貯えもフロアごとに行っているようである。

日本橋：

- ・ 防災に関しては若い世代の方が危機意識が高く、高齢者層とのギャップを感じているようであるが、まずは関係作りを優先に取り組んだ方がよいのではとの意見になった。
- ・ 日本橋地域は在宅避難となっているが、在宅避難が住民に浸透しているのかが疑問である。また、在宅避難から防災拠点に行く判断は誰がどのように情報を届けるのが課題ではないか。
- ・ 区や社協の提供するメニューはあるが、それらを捌いて届けるところまでが難しいのではないか。
- ・ 防災拠点は小学校区にあるが、その他、町会・自治会、連合自治会、消防団などそれぞれの区割りが異なるため、防災のイベントを地域で行っても全参加者に合致するような説明をするのが難しい。
- ・ 町会・連合町会では、親子を対象にした防災イベントを行っているが、高齢者まで情報を届けるのが難しい。また防災や災害時に誰が高齢者に情報を届けるのか、旗振り役が決まっていないのも課題ではないか。
- ・ 高齢者の見守り活動を行う担い手の高齢化が課題である。

月島：

- ・ 地域たすけあい名簿の対象の方に掲載をしても大丈夫か確認を取ってから行っている。地域たすけあい名簿に載っている方をすべての地域の方が把握できるものではないので、どこまで機能するのかといった課題もあり、普段から地域で顔の見える関係性を作ることも大事になってくる。
- ・ 月島地域はマンションが多い。自分のことを把握してほしくない人も多くいるのでその方たちの対応をどうするのか課題はある。
- ・ マンションの中には管理組合で独自の防災マニュアルを作成し、対策が進んでいるところもある。一方で、独自の防災マニュアルを作成するのが難しいマンションは、要援護者を把握するのが難しいところがある。
- ・ 在宅時は防災マニュアルが機能しても、外出時はそうとは限らない。外出先からマン

マンションの上の階に帰るのが大変といったことが想定される。またある高齢者の集まりで、外出時における防災対策について聞き取りを行ったところ、特になにもしていないと答えた高齢者もあり、外出時の防災について意識していない方が多いと感じている。

- ・能登半島地震を契機に今は防災に関して関心が高いが、時間が経つにつれ薄れていってしまう。関心を継続的に持ってもらう仕組みは何かできないか。

【総括】

- ・中央区の地域特性としてマンション・集合住宅が多く、高齢者も独居の方が多いという状況の中で、被災した時につながりをもって把握するという状況を作り出すことが大事であることがわかった。日頃からの備えは重要であることを感じた。
- ・情報を届けることに関して、どのような意図をもって、どこが、どのように、情報を届けるのかまでは把握できていなかった。
- ・時間帯（夜間なのか、活動時であるのかなど）によって、また外出時にマンションに戻れないことも想定し在宅避難がうまくいくのかも含め、様々なシチュエーションで考えていく必要がある。
- ・身近なところでどういうふうにできるのか考えていければ、中央区全体につながるのではないか。今回話し合った内容を委員それぞれの場の活動に生かしてほしいと思う。自身のサロン活動でも参加者に防災について投げかけ、今後とも考えていきたい。